

国際化学肥料ニュース (2015年6月)

肥料業界の2015年6月動態

- * ロシアの Uralkali 社は中国銀行と 1 億ドルの輸出担保融資の契約を締結した。これにより Uralkali 社は中国から輸出担保融資の総額が 6.3 億ドルになった。今回の融資は Uralkali 社の加里生産能力 5 年拡張計画に必要な 45 億ドルの投資に充てる予定である。欧米のロシアに対する経済制裁の影響を受け、中国銀行の融資金利がロンドン金融市場の金利より若干高い。償還期間は来年からの 4 年間で、輸出する加里の代金が担保である。

- * 中国政府の統計データによれば、2015 年 1～5 月の化学肥料生産量が下記の通りである。窒素肥料 (N 換算) 3.18%増の 1984.6 万トン、その内尿素 (N 換算) 5.54%増の 1383.66 万トン、りん酸肥料 12.7%増の (P2O5 換算) 783.8 万トン、化成肥料 6.28%増の 3011.39 万トン、アンモニア合成量 0.97%増の 2386.39 万トン。

- * 5 月 27 日、トルコのイスタンブールで開かれた IFA (国際肥料工業会) の年度大会に中東バーレーンの gulf petrochemical industries (GPIC) 社の会長 Abdulrahman A. Hussain Jawahery 博士が IFA の新会長に選出された。IFA 史上初の中東系の会長である。GPIC 社は 1979 年に設立された国営の石油化学会社で、アンモニア、尿素、メタノールを生産している。Abdulrahman 氏が 1983 年に GPIC 社に入社、2005 年に社長就任、2011 年に会長就任した。

- * インド STS 社は 6 月 19 日に尿素入札を行った。これはインド今年第 4 回の尿素入札である。開札の結果、20 社の応札があり、応札量 197.35 万トン、最低応札価格 CFR305 ドル/トンである。
また、STS 社は契約量 80～90 万トンを予定する。その内訳はイラン産 18～19 万トン、中東産 18 万トン、黒海産 12 万トン、中国産 35 万トンとされている。

- * インドの尿素国際入札価格の高騰で、国内の尿素需要を満足させるために、インド政府は南部にある 3 社の尿素メーカーに原料ナフサの供給期間を 3 か月延長すると発表した。この 3 社の尿素生産能力は 150 万トン/年で、ナフサの供給期間延長はメーカーへの天然ガスパイプなどの供給設備を完成して、天然ガスを供給できるまで続けるとみられる。

今年4月からインドの尿素販売量が増加し続ける。4～5月の尿素販売量が前年同期より84.5万トンも増加し、増加率が約15%であった。5月末現在の全国尿素在庫量42.5万トンしかなかった。

- * ブラジルの化学肥料使用量が急減した。昨年12月末に化学肥料の在庫量が史上最大となり、過去5年間最悪の水準となった。また、今年第1四半期の化学肥料販売量が前年同期より8.7%も減少した。専門家の観測では、今年の化学肥料輸入量が15～20%減の1960～2050万トンに下落するだろう。

化学肥料使用量の減少の原因は、農産物の価格下落と銀行貸し出し金利の上昇である。ブラジル農産物の主要輸出品目の大豆やトウモロコシは国際市場価格の下落で、農家の収入が減少した。また、政府が緊縮財政を実施して、農業向け貸し出し法定金利が6.5%からさらに1～2%上がるだろうと見られている。農家が生産コストを抑えるため、生産資材、特に化学肥料の購入を削減している。

- * ブラジルのDu Solo社は、傘下のBomfim過りん酸石灰工場の生産量が900トン／日に達したと発表した。Du Solo社はブラジル唯一の過りん酸石灰工場で、現地の低含有量りん鉱石を原料として可溶性りん酸12%、15%、18%の過りん酸石灰を製造している。今年中に生産能力を16万トン／年に拡大する予定である。

- * 6月25日、インド政府は2015～2016年度の尿素を除く化学肥料の補助金基準を公表した。1kgあたりのN、P、K、S成分の補助金額はNが20.875ルピー（約0.33ドル）、Pが18.679ルピー（約0.30ドル）、Kが15.5ルピー（約0.25ドル）、S（硫黄）が1.677ルピー（約0.03ドル）である。即ち、DAPが196ドル／トン、MAPが190.6ドル／トン、重過石が136.4ドル／トン、塩化加里が147.6ドル／トン、硫酸が74.4ドル／トン、15-15-15の化成肥料が131.1ドル／トンの補助金が与えられる。

- * 中国政府の統計データによれば、5月の化学肥料生産量（N、P、K100%換算、以下同）638.6万トン、前年度同期より6.4%増であった。その内訳は、アンモニアが2.1%減の474.0万トン、尿素が3.9%増の286.4万トン、りん酸肥料が16.0%増の163.3万トン、加里肥料が8.6%増の62.9万トン。

しかし、化学肥料消費量が下落している。1～5月の化学肥料消費量が3.2%増の2630.7万トン。その内訳は、尿素消費量が3.0%減の1099.0万トン、りん酸肥料消費量が1.3%減の624.6万トン、加里肥料消費量が8.4%増の402.2万トン。

国内消費不振の代わりに輸出が関税の軽減により順調である。5月の化学肥料輸出货量（実物量、以下同）が108.8%増の332.6万トンに達し、金額が139.6%増の10.5

億ドル。1～5月の化学肥料輸出量が70.5%増の1422.6万トン、輸出金額が73.5%増の42.3億ドルであった。

大手各社の営業業績

- * ロシアのAcron社は今年第1四半期の営業業績を公表した。化成肥料などの肥料生産量160万トン、販売量150万トン、売上高が昨年同期より11%減の4.45億ドル（277億ルーブル）、純利益が400%増の1.14億ドル（71億ルーブル）である。減産増収の理由は化成肥料の販売価格の上昇である。

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

- * 6月2日、世界最大の尿素生産ラインの建設が始まった。この尿素生産ラインは中国内モンゴルの烏蘭浩特市にあり、褐炭を原料とする生産能力アンモニア70万トン/年、尿素120万トン/年、2017年完成する予定である。その後、第2本の生産ラインも建設する計画で、合計で生産能力アンモニア135万トン/年、尿素240万トン/年の一大プロジェクトとなる。総投資額約17億ドルである。

- * 6月8日、ベトナム国営ペトロベトナム化学肥料社はPhu My工場のアンモニア合成装置の拡張と新たに化成肥料生産ラインの建設計画を発表した。投資額2.37億ドル、2017年第2四半期完成する予定である。完成後、Phu Myのアンモニア生産能力が9万トン/年から25万トン/年に増加し、増加したアンモニアは化成肥料の生産に供し、化成肥料能力が25万トン/年に拡大する。

ペトロベトナム化学肥料社は6月7日にイタリアTechnip社、ドイツThyssenKrupp社、ベトナムPTSC社との間に本件の建設と設備に関する契約を締結した。

- * オーストラリアPotash West社は西オーストラリア州Dandanagan盆地Dinner地域にあるりん鉱脈の探鉱井戸計90個の試掘を終了したことを発表した。試掘調査の結果、当該りん鉱脈はりん酸平均含有量2.9%、資源埋蔵量2.5億トン、鉱脈が浅く採掘が容易である。

また、Potash West社は同時に当該地域の海緑石（グロコナイト、glauconite）の探鉱も完了した。加里（K2O）平均含有量4%、資源埋蔵量1.75億トン。Dinner地域は最寄りのPerth港まで175kmしかなく、輸送が便利である。

- * カナダのCominco社は、アフリカコンゴ共和国のHindaりん鉱山プロジェクトの実行可能性の研究結果を公表した。Hindaりん鉱山はコンゴ共和国のKouilou県にあり、最寄りの港まで37km、りん鉱石採掘可能量470万トン、P2O5平均含有量11.4%、採掘が容易で、完成後26ヶ月だけで投入した資金を回収できると述べた。

- * ロシアの EuroChem 社はイタリアの Maire Tecnimont とアンモニア工場の一括建設契約を締結した。生産能力アンモニア 2700 トン／日、総費用 6.6 億ユーロ、2018 年完成する予定。

EuroChem 社はアンモニアと尿素生産能力を拡大するため、これから 10 年間にロシアに計 5 ヶ所のアンモニア・尿素生産ラインを新設する計画である。すべて完成後、アンモニア 500 万トン／年、尿素 750 万トン／年の生産能力が増加する。

その他

- * ロシアのザバイカリエ地方政府は中国浙江華俄興邦投資会社との間に 11.5 万ヘクタールの土地を貸し出す意向書を締結した。その内容は、荒れ地 6.5 万ヘクタール、牧場地 5 万ヘクタール、賃貸期間 49 年、賃料 5.1 ドル／年・ヘクタール、49 年の賃料総額 2890 万ドルである。本件の正式契約は地方政府議会の決議とロシア連邦政府の許可が必要で、実現するか否かは不明である。

ロシアのザバイカリエ地方はシベリアの南東部に位置し、中国とモンゴルとの国境線が 1500km もあり、人口が少なく、未利用の土地が多い。中国浙江華俄興邦投資会社の発表によれば、荒れ地を開拓して飼料、穀物などの農作物と漢方薬を栽培し、牧場に畜産業と鶏養殖を展開する計画である。

- * 6 月 23 日、イスラエル ICL 社はカナダの加里メーカー Allana Potash Corp の買収完了を発表した。2014 年 ICL は 2,500 万カナダドルで Allana 社の 16.22% 株を購入したが、完全買収を目指して、その後も協議を続けた。今回は総額 1.37 億カナダドルで残っていた 83.78% 株を買収した。

Allana 社はアフリカのエチオピア Afar 州 Danakhil 砂漠に加里採掘権を持っている。2013 年 2 月に公表された Allana 社の可能性調査報告によれば、Danakhil に塩化加里 100 万トン／年の生産基地を建設する場合は、25 年間の採掘が可能である。

ICL の買収により Danakhil 加里開発プロジェクトの進捗が加速される一方、塩化加里のほか硫酸加里の生産可能性も検討するという。

- * ロシア RIA Novosti 通信社 6 月 22 日の報道によれば、ロシア Uralkali 社は今年末に民営化される可能性がある。現在、Uralkali 社はロシア政府が 24.16%、Onexim グループが 20%、UralChem グループが 19.99%、中国投資グループが 12.5%、その他 23% の株式を所有している。しかし、Onexim グループは所持株を UralChem グループに売却する計画である。売却後、UralChem グループが 40% 超の株式を持ち、最大の株主となり、民営化される可能性が大きくなる。

- * 6月25日、世界最大の加里肥料メーカーカナダの Potash Corp 社はドイツの K+S 社を買収する意向があると発表した。買収総額 79 億ユーロ（約 87 億ドル）。K+S 社も同日、Potash Corp 社から買収意向書を受け取ったと認めた。なお、6月25日の K+S 株価は 44.78 ドル/株、株式総額 78.4 億ドルである。

K+S 社はヨーロッパ最大の加里メーカーで、2014 年の売上高 42.8 億ドルである。また、2016 年末にカナダにある塩化加里生産能力 200 万トン/年のプロジェクトが完成する予定である。

1997 年に Potash Corp 社も K+S 社を買収する行動に出たが、ドイツ政府に阻止された経緯があった。今回買収再演は、Potash Corp 社が最大の加里メーカーの位置を確実にするとともに生産量を制御して、加里肥料の生産過剰による価格下落を防ぐ目論見がある。

塩化加里の生産コストを比較すれば、K+S 社が世界大手の中で一番高く、この 3 年間の平均では 265 ドル/トンである。一方、Potash Corp 社が 160 ドル/トンしかなかった。また、生産能力では、Potash Corp 社が 1700 万トン/年、K+S 社が 600 万トン/年である。

- * 速報： 7月2日、K+S 社は Potash Corp 社の買収提案を拒絶した。拒絶理由は、買収価格が低すぎることと買収後 K+S 社を解体して従業員を削減する可能性があることを挙げた。

K+S 社はドイツ国内の加里事業が停滞しているが、カナダ Legacy 加里開発プロジェクトが 2017 年に完成すれば、年間 200 万トンの塩化加里を生産できるため、その価値だけでは株あたりに 21 ユーロを値する。Potash Corp 社の 41 ユーロ/株の買収提案は K+S 社の価値を不当に低く評価している。

また、K+S 社が買収された場合は、地域ごとに分割され、Potash Corp 社に組み込まれ、1.4 万人の従業員の雇用が守られない可能性があるとして指摘した。

Potash Corp 社の買収提案を拒絶したことが明らかになった 7月2日のドイツ株式市場における K+S 社の株価は約 2%下落して、37.02 ユーロ/株であった。